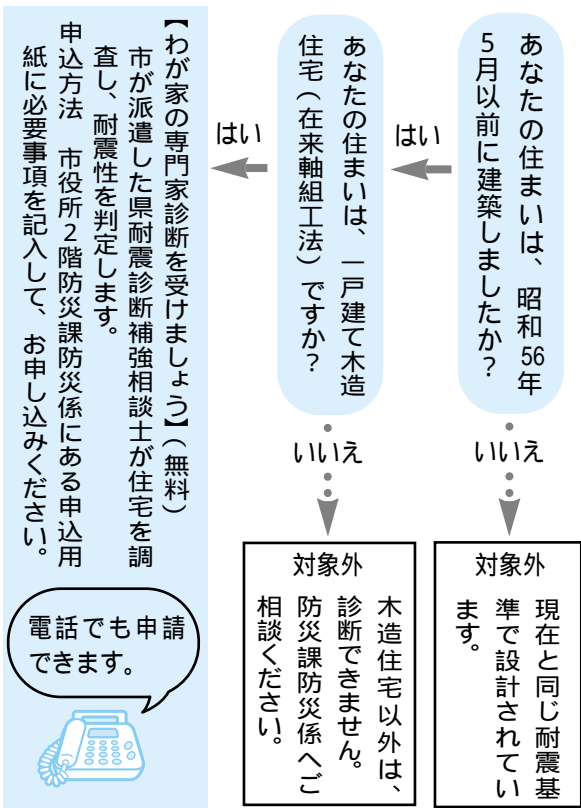


わが家の専門家診断



防災まめ知識
 ~昭和56年5月以前~

市では、昭和56年5月以前に建てられた木造住宅の耐震化を進めています。
 市内における「わが家の専門家診断」の受診棟数は、1,432棟(平成13~17年度の5年間)です。



環境衛生課環境保全係 44-3115

家庭での電気使用量の約7割は、エアコン、冷蔵庫、照明器具、テレビによるものです。消費電力量の多い機器に、きちんと対応することが省エネ効果を高めることとなります。

毎月の電気代を節約するには、冷暖房の温度を適正にしたり、冷蔵庫の開け閉めを減らしたりするだけでなく、待機時電力を減らすことが重要です。

待機時消費電力とは、夜、部屋の電気を消した時、テレビやビデオデッキから小さな光が出ていることがあります。

このように、機器を使っていないのに消費される電力を「待機時消費電力」といいます。

プラグを抜かないと電力が消費されます。主電源を切らない限り機器の本体は、リモコンからの操作信号をいつ受けてもいように、指示待ち状態を保っています。

リモコン操作の機器ばかりでなく、時計や液晶表示装置などが内蔵されている機器も、コンセントにプラグを差し込んでいるだけで電力を消費してしまいます。

待機時消費電力を減らすポイント
 家庭での電気使用量の約1割が待機時消費電力によるものです。

待機時消費電力を減らすためには、次のことに気を付けましょう。

主電源を消す習慣を身に付けよう
 長期間留守にする時は電化製品のプラグをコンセントから抜こう
 携帯電話などの充電が終わったら充電器のプラグは抜こう
 スイッチ一つで電気を遮断できるスイッチ付きコンセントを使おう

